

Title	デンマークの保育制度
Author(s)	相川, 徳孝
Citation	聖学院大学論叢,21(3) : 123-131
URL	http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=898
Rights	

聖学院学術情報発信システム : SERVE

SEigakuin Repository for academic archiVE

デンマークの保育制度

相 川 徳 孝

Child care system of Denmark

Noritaka AIKAWA

We were provided the opportunity to study the child care system in Denmark, which is known as a country implementing an advanced social welfare program. The results of the study, which focuses on child care and the child care system in the city of Roskilde, is summarized in the form of a report with the aim to provide material for a future comparison with the child care system in Japan.

Key words: Child care system, Social welfare, Family support

I. はじめに

特別研究期間中に（2007年8月～2008年2月）福祉先進国といわれているデンマークの保育について、ロスキレ市の保育施設を訪問し、レクチャーを受けるという機会を得た。

ここではロスキレ市を中心に学んだデンマークの保育制度と保育についてまとめ、後に日本の保育制度と比較するための資料としたい。

なお、訪ねたロスキレ市の施設は下記の表の通りである。また、いずれの施設でも施設長と保育について話し合う時を持った。

ヴィンインゲ保育園（3歳～6歳）
ホイバンクセミナリイト（保育士養成学校）
リンバッケン総合保育園 森の保育グループ
自然保育園（3歳～6歳）
青少年クラブ

Ⅱ. デンマークという国

1. 女王のいる国

ヨーロッパの北部に位置するスウェーデン、ノルウェーとならんでスカンジナビア3国の1つであるデンマークは、ドイツ北部の北海に突き出たユトランド半島と周辺の大小483の島からなっている。日本でいうと九州より少し広いくらいの国であるが、デンマーク自治領であるグリーンランドと本土から約千キロ離れた大西洋上のフェロー諸島を加えると面積としてはヨーロッパ最大となる。

立憲君主制であり、現在はマルグレーテ2世女王が元首の地位にある。議会は一院制であり、現在は自由・保守連合による中道右派内閣でアナス・フォー・ラムセンが首相となっている。

人口は約543万人（2007年デンマーク統計年鑑）であり、宗教はプロテスタントのキリスト教である福音ルーテル派（国教）である。言語はデンマーク語である。

2. 産業について

デンマークでは塩、硫黄、石灰石などの天然資源しかないが、平坦であるという有利な立地条件をいかした農業や酪農、畜産業が伝統的な産業となっている。それ以外には食品加工、農業機械、造船、化学工業などが盛んである。最近ではバイオテクノロジーや情報技術の先端産業が世界的な注目を集めている。また、小規模であっても伝統的な技術を誇る陶磁器、銀製品、家具などは世界的に高い評価を得ている。玩具メーカーとして有名なレゴ（LEGO）社はデンマークの企業である。

3. 福祉先進国となった背景

デンマークの福祉が世界的に見て優れた内容を達成した背景には自由と平等を勝ち取るための長い戦いの歴史があった。時の権力者や支配者に対する抗議や抵抗、闘争の結果、民主主義制度が確立された。そして農民や労働者を含むすべての国民の生活を保障する福祉国家の基礎が築かれ、税金によって運営される社会保障制度が確立していくことになった。

現在の充実した社会福祉を支えているのは、所得税が個人収入の49.5%、消費税25%、その他、酒、たばこ、自動車等には間接税が付加されるという、世界でもトップレベルの高い課税水準を持っている税金である。

4. 世界幸福度ランキング1位

2005年2月、オランダのエラスムス大学教授が世界90カ国を対象にして行った国際幸福度調査で、デンマークは「高度な民主主義、自由、寛容さ、平等」などの点において満点であるとし、高税率、

高物価にもかかわらず「世界一幸福」を感じている国民であることを発表した。また、2006年5月には、EU25カ国の生活の満足度調査が発表され、デンマークがトップとなり、98%のデンマーク人が「デンマークに住んでいることに満足し、仕事や家庭が大好き」と答えている。

このことから、デンマークは「自分らしく生活することができて暮らしやすい国である」ということが分かる。

Ⅱ. デンマークの保育制度

1. 保育制度の変革を生み出した女性たち

1960年代以降、デンマークの経済は飛躍的に発展していった。そのために労働力が不足し、女性の社会に進出が盛んになっていった。女性就労者人口が増加するとともに、専業主婦の数が低下し、いままで専業主婦が担ってきた高齢者に対するケアや育児を担う人や場を必要とする家庭が増加していった。このような社会のニーズに行政、とくに地方自治体が取り組むことが不可欠となり、保育制度の変革が行われていった。

2. 多様な保育制度

現在、男女社会共同参画が進んでいるデンマークでは両親が仕事をもち、子どもを保育施設に預けることは当たり前のこととなっている。各自治体はその責任において、0歳から6歳の乳幼児を保育する場を提供しなければならず、多様な保護者の保育ニーズに適応できるよう下記のような保育施設を整備している。

- ・乳児保育園：0歳～2歳までの乳児が利用できるが、保護者は育児休暇を取得するため、利用するのは1, 2歳児が多い。
- ・幼児保育園：排泄の自立ができる2～3歳から入園し、就学前まで保育が受けられる施設。
- ・総合保育園：いままでの保育園は乳児保育園と幼児保育園とに分けられていたが、移行する際の子どもの負担を考慮し、0歳から就学前までの年齢の保育が一貫してできるように総合保育園が設立された。現在はこの総合保育園という形態が多くなってきている。
- ・保育ママ：待機児が多く保育園に入園できない子どものために、市の管理のもと、保育ママ制度ができた。自治体の認可を得る必要があるが、自宅で0歳～3歳の乳幼児を5人まで保育ができ、それに対して給与が支払われる。
- ・特別枠：保育施設を選択するのではなく、保護者が仕事を休んで自分の子どもを見る場合、自治体から補助金が受けられるという制度である。
- ・学童保育：小学校1年～3年生までが利用できる。ほとんどの施設が学校の敷地内に設置され、親が帰宅するまで、この施設で過ごす。

デンマークの保育制度

- ・青少年余暇クラブ：小学校4年～7年生までが利用できる施設である。
- ・青年クラブ：青少年余暇クラブを利用した後、18歳まで利用できる施設。

Ⅲ. デンマークにおける保育の目的

1. 国が求める保育の目的

デンマークの福祉社会を根底に支えているものは民主主義である。民主主義の基本的な理念である、一人ひとりを平等で、かけがえのない人間として尊重し、個人の自由を最大限認め、その人の生き方、生活の仕方をできる限り大切にすること、そしてその民主主義を市民生活の重要な規範としてはぐむことがデンマークの教育理念となっている。その理念は乳幼児の保育の場にも生かされ、それをもとに保育の目的が設定されている。

保育における法律としては1998年のサービス法に保育の基本目的が下記のように記されている。

- ・デイサービス（保育）は、一人ひとりの子どもに合うケアと支援、および子どもの正しく健全な成長につながる社会的および一般的技能力の発達を保護者と協力して行う。
- ・デイサービス（保育）は、子どもの想像力、創造力、言葉の発達に刺激を促す経験や活動の可能性を与え、さらに遊びや身体活動、周囲検索または子どもが仲間とともに過ごすことができるようなスペースを確保しなければならない。
- ・デイサービス（保育）は、子どもに決定と責任参加の可能性を与え、それが集団での義務遂行に必要な自立と能力を発達させることを促す。
- ・デイサービス（保育）は、子どもの文化的価値と自然との共存への理解を促す。

この国が示した保育目的は大枠であり、各自治体はこれをもとに、自治体独自の保育目的をもっているのが一般的である。それは、市によって住民の考えや保育ニーズが違うという視点からである。

2. 保育士の子どもに対する基本姿勢

デンマークでは「自己決定できる人間」を育てることが一番の目標となっている。そのために、実際の保育の場でも、小さな頃から年齢にあった関わり方をし、自分で考えて行動するというこを子育ての基本とし、それをもとに以下のことが子育てでは大切に考えられている。

- ・子どもを含め、すべての人の人権を尊ぶ。
- ・人の話を聞く。子どもの言い分をよく聞き、見守る。
- ・見守ること（保育士の基本姿勢）
- ・手を出すのではなく、困っていること、その時必要とされることを、支え、援助をする。
- ・子どもの言い分をよく聞くこと。よく聞くと、他者の話もよく聞くようになる。

- ・褒めること。粗を探したり、失敗したことを責めるのではなく、褒めることを第一にする。褒められた子どもは、どんなことでも意欲的になっていく。
- ・みんな違って当たり前であるということを大切にする。
- ・自己決定すること。問題提起に対し、それを解決する方法を見出すようにする。そのために、子どもの年齢によって選択できる範囲のものを提供していく。
- ・遊びから学ぶ。体験することを大切に、その中から自ら学ぶことを大切にしていく。

IV. 保育士養成について

1. 保育士養成学校

保育士の資格を取得するためには、保育士養成学校に入学しなければならない。

学校に入学するためには国民学校卒業者で18歳以上であること。また統一テストのアベレージが養成学校の求めている基準に達していることが条件となる。

修業年限は3年6ヶ月であり、授業料は無料である。

2. 保育士資格について

保育士養成学校を卒業すると保育士資格が取得できるが、この資格があると下記の仕事に従事することができる。

- ・保育園保育士として0歳～6歳（就学前）までの乳幼児の保育に従事する。
- ・余暇活動指導員として6歳～18歳までの児童に対し、余暇活動指導員として従事する。
- ・ソーシャル保育士として障害者、社会的困窮者の介助。

入学した後、3年6ヶ月後に卒業し、保育士資格を取得する学生は定員の約半数であり、勉強についていけない、あるいは適正がないという理由で退学する学生も多い。

3. 教育内容と実習

修業年限3年6ヶ月の内、3分の2を理論的な学び（社会学 心理学 保健学 教育学 音楽ドラマ等）、3分の1が保育現場での実習にあてられ、1年終了後に3ヶ月間、2年終了時に6ヶ月間自分の希望する実習園に参加する。6ヶ月の実習では自治体から給与が支給されることになっている。

授業形態としてはどの授業も4人程度のグループを形成し、そのメンバーで与えられた課題に取り組むということで進められていく。そこでは各自が調べ、討論し、まとめるという力が求められ、そのプロセスでは自分の考えをしっかりと持つということが要求される。これは「自己決定できる人間を育てる」ことがデンマークの保育のねらいとしてあるため、「子どもとかがわろうとする保

デンマークの保育制度

育士にも、自分で考えて行動し、他者の話を聞くことができる力、また自己決定できる力が備わっていないなければならない」ということで考えられた教育方法である。

4. 養成校教師の役割

デンマークの保育士養成学校の教師は、知識を一方向的に教えるのではなく、学生自身が自分で考え、成長する姿を見守り、援助し、学生が勉強できるような環境を整えることがその役目である。特に、社会の変化が激しい中、ただ教科を教えるだけでは間に合わず、変化に対してどのように対応していけばよいのかということを考える力が必要であり、その力を学生個々に合わせて育成する役割を担っている。

学生のサポートについては、スタディアドバイザーシステムを取り入れている。これは入学時に担当教員が決められ、卒業するまで担当となる学生の生活や勉強等全体的なケアをしていく制度である。

V. 森の保育園について

デンマークの保育内容について、特色を一つあげるとすれば、誰もが「森の保育園」というであろう。これは保育活動の一つで、基本的には1年を通して天候に左右されず、1日を森の中で過ごす保育内容である。1960年代に女性の社会進出が盛んになるとともに、保育園に入園する子ども達が多くなり、既成の園舎だけでは対応できず、考え出した対策であると言われているが、子ども達が自発的に自然とかかわるなかで、学ぶことが多く、意味のある活動であると認識され、広まっていった。森の保育園といわれているものには2種類あり、保育園そのものが森の入口にあり、そこを拠点として森に行き、活動するタイプと、総合保育園の保育活動の一部として組み入れ、保育園から30分～40分、バスに乗り、活動の拠点となる場所まで移動するタイプとがある。

ここでは後者のタイプになるリンバッケン総合保育園の森の保育園グループの活動を紹介する。

1. 森の保育園が子どもに育てたいこと

この森の保育園の活動目的は「子どもが自然と親しみ、自然と共に過ごすことを通して、自然を大切に作る心、自然と共存する心を育てる」ということにあります。

2. 一日の活動

森の保育園の活動を選択している子ども達は2つのグループ（3～4歳のグループと5～6歳のグループ）に分かれており、それぞれ1週間毎交互に森での活動をしている。

保育園に登園し、9時頃になるとバスに乗り、30分程の距離を移動し、森の中の活動拠点となるかやぶき屋根の家（森の家）に行く。しばらく、この森の家の周りで木登りやターザンロープで遊



んだり、おやつを食べたり（自分で食べたいと思ったら食べる）と自由に過ごす。

その後、グループ全員の子ども17名と保育士2名がサークルを作り、保育士から指された子どもが指差して人数を数え、誰がいるのか、確認し、森の奥へと歩いていく。

先頭に行くのは子どもたち。保育士は後方を歩きながら、子どもの発見や気づきに共感している。子どもと保育士の間にはルールがあり、先に行った子どもたちは「待つ場所」で全員が到着するまでまっている。（待つ場所から先は子どもたちだけでいかないことになっている）

子どもは木の実を見つけては口に入れ、その味を楽しみ虫を見つけては手にとって見つめている。20分位歩くと拓けた草原が広がり、大きな木や倒れた木、太い切り株が点在していた。子どもたち

の今日のメインはこの場所であり、しばらくの間、子ども達は身体全体を使い「木」とのかかわりを楽しんでいた。保育士は多少、子どもが危険なことをしても止めることはなく、静かに見守っている。その後、またゆっくりと歩き、森の家に戻ったのは12時30分頃であった。ここで昼食を摂り、その後、15時頃までこの場所で過ごし、15時30分には保育園に戻り、お迎えを待つ。

3. 事故や怪我に対してのケア

見学後、森の保育園の保育士とのミーティングの時を持った。その中で出た「森の中で具合が悪くなったらどうしますか」また「事故や怪我があった場合はどうしますか」という質問に対し、「怪我は転んで擦りむく等はあたりまえであり、保育士は見守っていますが、怪我をしないようにとはまったく思っていません。もし万が一、大きな怪我をした場合はすぐに救急車や保護者に迎えに来てもらいます。また、具合が悪くなった場合も保護者に連絡し、すぐに迎えに来てもらいます。事故や怪我が起きた場合は保育士の責任ではありますが、そのために責められることはありません。また保険については保護者個人で掛けてはいますが、園でということはありません。」との説明であった。ここでも「自己決定できる人間を育てる」「自己責任」という意識が高いことが伺えた。

VI. ま と め

「子どもの主体的な活動である遊びを大切にする保育」ということは日本においても言われていることである。しかし現実には「遊び」に対する解釈や理解が多様であり、共通した認識をもって保育をするということの困難さがある。また、保護者も子育ての中で何に価値を見出すかという、何かができることを第一とすることが多い。そのため、子ども自身が心から喜んで自分の心から欲する遊びに没頭できるという体験が乏しく、その人がその人らしく成長するのが困難になってしまっているのが今の日本である。

今回、デンマークの保育を実際に見て感じたのは、日本と同じように子どもが「主体的に遊ぶ」ということを大切にしているということであり、遊びは、国や文化が違っていても、人が人として育っていくためにはとても重要な要素であるということに改めて考えるにいたった。

今後はなぜ、デンマークでは「主体的な遊び」が大切にされる保育が一般的であるのに対し、日本では定着していかないのかということに着目していきたい。

参考文献

- 澤度夏代ブランド「デンマークの子育て・人育ち」大月書店 2006年
伊藤美好「パンケーキの国で」平凡社 2006年
澤度夏代ブランド・小島ブンゴード孝子「福祉の国からのメッセージ」丸善ブックス 平成12年
小島ブンゴード孝子「福祉の国は教育大国」丸善ブックス 平成16年
高田ケラー有子「平らな国デンマーク」生活人新書 2005年
山田駒平訳 デンマーク社会事業省編「デンマークの社会政策」2004年 協同総合研究所 「幸福度世界一の笑顔に学ぶ デンマーク ロスキレ市の豊かな福祉」子育て文化・高齢者福祉視察編集委員会 2008年